

UK04-PDF-001 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働条件の原則・均等待遇】設問「労働基準法が定める労働条件の基準について、正しいものはどれか。」に対し、回答「労働者が人たるに値する生活を営むための必要を充たすべき最低の基準である。」とした。

B.【休憩・休日（週休制）】設問「労働基準法上の休日付与の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「年間12日をまとめて与えればよい。」とした。

A. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

I. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

U. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

E. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。労働基準法第1条は労働条件を人たるに値する生活を営むための必要を充たす最低基準と位置付ける。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。年間一括12日という制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-002 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働条件の原則・均等待遇】設問「労働基準法第3条の均等待遇に関する説明として、正しいものはどれか。」に対し、回答「均等待遇は労働時間にだけ適用され、賃金には適用されない。」とした。

B.【休憩・休日（週休制）】設問「週休2日制の会社で、日曜日を法定休日、土曜日を所定休日としている。土曜日に働かせた場合の説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「所定休日労働には割増賃金が発生することは絶対にない。」とした。

A. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

I. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

U. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

E. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。賃金、労働時間その他の労働条件が対象である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。週40時間を超えれば時間外割増が必要な場合がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-003 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働条件の原則・均等待遇】設問「運送会社が「法定最低基準を守れば十分」として、従来より有利だった休暇制度を法定最低水準まで一律に引き下げようとしている。労働基準法第1条の趣旨に照らして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「労働基準法は労働条件の引下げを積極的に推奨している。」とした。

B.【36協定】設問「法定労働時間を超える時間外労働又は法定休日労働をさせる場合の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「労使で36協定を締結し、所轄労働基準監督署長へ届け出る必要がある。」とした。

A. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 36協定の回答は誤り。

I. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 36協定の回答は誤り。

U. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 36協定の回答は正しい。

E. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 36協定の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法の趣旨は労働条件の維持・向上である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。時間外・休日労働には36協定の締結・届出が基本的前提となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-004 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働条件の原則・均等待遇】設問「労働基準法上の「労働者」に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「正社員だけをいい、パートやアルバイトは含まれない。」とした。

B.【36協定】設問「時間外労働の原則的な上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「月100時間・年960時間。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

A. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 36協定の回答は正しい。

I. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 36協定の回答は正しい。

U. 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい / 36協定の回答は誤り。

E. 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り / 36協定の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。パート等も要件を満たせば含まれる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。960時間は自動車運転業務で特別条項時の年上限。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-005 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「運送会社が新たに運転者を雇い入れる場合、労働条件の明示時期として正しいものはどれか。」に対し、回答「労働契約の締結に際して明示する。」とした。

B.【36協定】設問「トラック運転者について、臨時的な特別の事情があり特別条項付き36協定を適法に締結・届出して時間外労働を行わせる場合、2024年4月以降の年上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「特別条項があれば年間上限はない。」とした。

ア. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 36協定の回答は誤り。

イ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 36協定の回答は正しい。

ウ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 36協定の回答は正しい。

エ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 36協定の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。労働条件は労働契約の締結に際して明示する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。特別条項があっても年960時間上限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-006 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「労働契約締結時に明示すべき労働条件のうち、原則として書面等による明示が必要な事項として適切なものはどれか。」に対し、回答「会社の年間売上目標」とした。

B.【36協定】設問「過半数労働組合がない事業場で36協定を締結する際の過半数代表者について、適切なものはどれか。」に対し、回答「使用者が最も信頼する労働者を一方的に指名すればよい。」とした。

ア. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 36協定の回答は正しい。

イ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 36協定の回答は誤り。

ウ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 36協定の回答は正しい。

エ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 36協定の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。売上目標は法定の労働条件明示事項ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。使用者の一方的指名は適切でない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-007 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「現在の労働条件明示ルールに関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「無期転換申込権が発生する更新時でも、無期転換申込機会の明示は不要である。」とした。

B.【年次有給休暇】設問「通常の労働者が雇入れの日から6か月継続勤務し、その期間の全労働日の8割以上出勤した場合、原則として最初に付与される年次有給休暇の日数はどれか。」に対し、回答「10日。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

A. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は誤り。

I. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は誤り。

U. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は正しい。

E. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。無期転換申込機会等の明示が必要となる場合がある。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。6か月継続勤務・8割以上出勤で10日が付与される。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-008 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「労働契約の一部が労働基準法で定める基準に達しない場合、その部分の扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「労働者が署名していれば法定基準を下回る部分も有効となる。」とした。

B.【年次有給休暇】設問「通常の労働者が出勤率要件を満たし、継続勤務1年6か月となった場合に付与される年次有給休暇の日数として正しいものはどれか。」に対し、回答「14日。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

A. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は正しい。

I. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は正しい。

U. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は誤り。

E. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。署名で強行規定を下回ることはできない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。14日は3年6か月時点。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-009 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「一定の事業の完了に必要な期間を定める場合等を除く有期労働契約の契約期間について、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「原則3年を超えてはならないが、一定の高度専門職や満60歳以上の者などは5年まで認められる場合がある。」とした。

B.【年次有給休暇】設問「通常の労働者が継続勤務6年6か月以上で出勤率要件を満たす場合、法定の年次有給休暇付与日数は原則何日か。」に対し、回答「25日。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

ア. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は誤り。

イ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は正しい。

ウ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は正しい。

エ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。原則3年で、一定の高度専門職や60歳以上には5年までの特例がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。25日まで増える制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-010 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「運転者が業務上の負傷により療養のため休業している。使用者の解雇制限に関する原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「休業中だけ禁止で、復職翌日から自由に解雇できる。」とした。

B.【年次有給休暇】設問「法定の年次有給休暇が10日以上付与される労働者について、使用者の年5日の取得確保義務に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「年休が10日以上付与されても取得確保は努力義務にすぎない。」とした。

ア. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は正しい。

イ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は誤り。

ウ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は正しい。

エ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。休業終了後30日間も原則制限が続く。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。年5日の取得確保義務がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-011 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「使用者が労働者を解雇しようとする場合の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「必ず90日前に予告し、手当て代替できない。」とした。

B.【年次有給休暇】設問「時間単位の年次有給休暇に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「労使協定を締結することにより、年5日分を限度として時間単位で与えることができる。」とした。

ア. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は誤り。

イ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は誤り。

ウ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は正しい。

エ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。原則は30日前である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。時間単位年休は労使協定により年5日分を限度に導入できる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-012 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「使用者が労働者に対し、解雇日の20日前に解雇予告をした。ほかに例外事由がない場合、必要となる解雇予告手当の日数として正しいものはどれか。」に対し、回答「手当は不要。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【年次有給休暇】設問「労使協定による年次有給休暇の計画的付与に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「計画的付与には労使協定は不要である。」とした。

ア. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は正しい。

イ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は正しい。

ウ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい / 年次有給休暇の回答は誤り。

エ. 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り / 年次有給休暇の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。30日に不足する日数分が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。労使協定が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-013 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「労働者の責に帰すべき事由を理由に解雇予告制度の適用除外を主張する場合の説明として適切なものはどれか。」に対し、回答「法定の除外を適用するには、所轄労働基準監督署長の認定が必要となる場合がある。」とした。

B.【最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限】設問「児童の使用に関する労働基準法上の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「最低年齢規制は運送業には適用されない。」とした。

ア.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り。

イ.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい。

ウ.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい。

エ.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。労働者の責に帰すべき事由等による除外では法定の認定手続が問題となる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送業も対象。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-014 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「運送会社が運転者との労働契約に「1年以内に退職した場合は一律30万円を違約金として支払う」と定めることについて、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運送業では自由に違約金を設定できる。」とした。

B.【最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限】設問「満18歳に満たない年少者の深夜業について、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「割増賃金を払えば深夜業制限はなくなる。」とした。

ア.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい。

イ.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り。

ウ.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい。

エ.労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい／最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送業も適用対象である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。割増賃金で就業制限は消えない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-015 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【賃金支払5原則】設問「運転者本人から「今月の賃金は家族に直接渡してほしい」と申し出があった。賃金支払の原則に照らした対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「会社の判断で同僚に支払ってよい。」とした。

B.【最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限】設問「妊産婦の就業制限に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「産後8週間は原則として就業させてはならないが、産後6週間を経過した女性本人が請求し、医師が支障ないと認めた業務には就かせることができる。」とした。

A. 賃金支払5原則の回答は誤り / 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り。

イ. 賃金支払5原則の回答は正しい / 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り。

ウ. 賃金支払5原則の回答は誤り / 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい。

エ. 賃金支払5原則の回答は正しい / 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。同僚への支払いは直接払いではない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。産後8週間は原則だが、6週間経過後は本人請求と医師の判断で例外がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-016 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【賃金支払5原則】設問「賃金の全額払いの原則に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「使用者は理由なく自由に控除できる。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「就業規則を作成し、所轄労働基準監督署長へ届け出る義務が生じる事業場の基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「運送業では人数にかかわらず作成義務はない。」とした。

A. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

イ. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

ウ. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

エ. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。一方的な自由控除はできない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送業も対象。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-017 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【賃金支払5原則】設問「通常の月例賃金の支払方法として、労働基準法上の原則に最も適合するものはどれか。」に対し、回答「毎月1回以上、一定の期日を定めて支払う。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「就業規則に必ず記載しなければならない事項として適切なものはどれか。」に対し、回答「代表者の個人資産」とした。

A. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

I. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

U. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

E. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。賃金は毎月1回以上、一定の期日に支払うのが原則である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。代表者の個人資産は記載事項ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-018 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【賃金支払5原則】設問「賃金の支払方法について、現在の制度に照らして正しいものはどれか。」に対し、回答「デジタル払いは現在も全面禁止である。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「常時10人以上の労働者を使用する営業所で就業規則を変更する場合、労働者側への手続として正しいものはどれか。」に対し、回答「労働者側の意見を聴く手続は不要である。」とした。

A. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

I. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

U. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

E. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。一定要件で制度化されている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。意見聴取手続がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-019 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【賃金支払5原則】設問「運送会社が月例賃金を銀行口座へ振り込む場合の説明として適切なものはどれか。」に対し、回答「口座振込なら毎月1回以上・一定期日払いも不要となる。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「就業規則の周知方法として適切なものはどれか。」に対し、回答「事業場の見やすい場所への掲示・備付け・書面交付、常時確認できる社内システムへの掲載などにより労働者が容易に確認できるようにする。」とした。

ア. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

イ. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

ウ. 賃金支払5原則の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

エ. 賃金支払5原則の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。支払方法が変わっても他の原則は維持される。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。就業規則は労働者がいつでも確認できるよう周知する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-020 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休業手当・出来高払保障給】設問「使用者の責に帰すべき事由による休業の場合、休業期間中に支払うべき休業手当の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「平均賃金の40%以上。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「労働者名簿に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「会社設立時に1回作れば変更を記録する必要はない。」とした。

ア. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

イ. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

ウ. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

エ. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。40%では足りない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。必要事項に変更があれば訂正が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-021 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休業手当・出来高払保障給】設問「1日8時間勤務の労働者について、会社都合で4時間だけ休業させ、残り4時間分の賃金としてその日の平均賃金の30%相当額を支払った。労働基準法上の休業手当の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「その日の支払額が平均賃金の60%に達するよう、不足額を休業手当として支払う必要がある。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「賃金台帳に記入すべき事項として適切なものはどれか。」に対し、回答「取引先の営業秘密」とした。

ア. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

イ. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

ウ. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

エ. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。一部休業では、実際の支払賃金と休業手当を合わせて法定水準を満たす考え方になる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。取引先営業秘密は法定事項ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-022 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休業手当・出来高払保障給】設問「出来高払制その他の請負制で使用する労働者の賃金について、正しいものはどれか。」に対し、回答「出来高払制には賃金規定が一切適用されない。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「労働者名簿や賃金台帳など労働基準法上の重要書類の保存期間について、現行の法体系を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「保存期間は法律で定められず会社が自由に決める。」とした。

ア. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

イ. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

ウ. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

エ. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。出来高払制も労基法の適用対象。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法令に定めがある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-023 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休業手当・出来高払保障給】設問「「休業手当」と「休業補償」の説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「両者は名称だけ異なり要件も支給主体も完全に同じである。」とした。

B.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「労働者名簿や賃金台帳を電子データで管理する場合の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「法定事項が記録され、必要なときに確認・出力できるなど必要な状態を確保していれば、電子的な管理も可能である。」とした。

A. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

I. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り。

U. 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

E. 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい / 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。制度の要件が異なる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。電子媒体でも法定事項の記録・保存・確認可能性等を確保することが重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-024 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「1か月60時間以下の法定時間外労働に対する割増賃金率の最低基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「35%以上。対象区分が異なれば別の数値基準が適用される場合がある。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「改善基準告示におけるトラック運転者の「拘束時間」の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「終業から次の始業までの自由な時間をいう。」とした。

A. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

I. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

U. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

E. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。35%は法定休日労働の最低率である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。それは休息期間の考え方である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-025 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「法定休日に労働させた場合の割増賃金率の最低基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「35%以上。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。
- B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「トラック運転者の1年の総拘束時間について、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「1年3,600時間以内を原則とする。」とした。
- A. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。
- I. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- U. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- E. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。法定休日労働の割増率は35%以上である。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。3,600時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-026 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「労働基準法上、原則として深夜労働の割増賃金が必要となる時間帯と最低割増率の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「午前0時から午前5時まで・50%以上。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。
- B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「ある営業所が月間の運行計画を作成している。例外の労使協定を用いない場合、運転者1人当たりの月間拘束時間を何時間以内に収めるべきか。」に対し、回答「1か月310時間以内を労使協定なしで常に認める。」とした。
- A. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- I. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。
- U. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- E. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。0時開始ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。310時間は一定の例外要件を満たす場合の上限である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-027 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「法定時間外労働が午後10時以降の深夜時間帯にも及んだ。1か月60時間超の部分ではない場合、その時間帯の最低賃金率として正しいものはどれか。」に対し、回答「通常の1時間当たり賃金の135%以上。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「労使協定により拘束時間を延長する例外を用いる場合の年間・月間上限の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「年間3,400時間以内、1か月310時間以内である。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

A. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

I. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

U. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。135%は法定休日労働の基本率。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。所定の要件の下で年3,400時間、月310時間までの例外がある。

。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-028 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「1か月の法定時間外労働が60時間を超えた部分の割増賃金率について、現行制度として正しいものはどれか。」に対し、回答「25%以上のままで中小企業には50%規定は適用されない。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「トラック運転者の1か月の拘束時間を例外的に284時間を超えて延長する場合、その月数に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「月数の制限は設けられていない。」とした。

A. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

I. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

U. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

E. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。中小企業への猶予は終了。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。年6か月までという制限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-029 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「法定休日の午後10時から深夜時間帯に労働させた場合、その時間帯の最低賃金率として正しいものはどれか。」に対し、回答「通常の1時間当たり賃金の160%以上。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「ある運送会社が、トラック運転者の月拘束時間を285時間以上とする月を4か月連続で計画している。現行基準に照らした評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「284時間超の月は2か月までしか認められない。」とした。

A. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

I. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

U. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。法定休日35% + 深夜25%で160%以上となる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。上限は『3か月を超えて連続しない』である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-030 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「原則的な法定労働時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「1日10時間、1週50時間。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「拘束時間の例外を用いる月における時間外・休日労働について、改善基準告示上の取扱いとして適切なものはどれか。」に対し、回答「時間外・休日労働時間数は拘束時間と無関係なので考慮不要である。」とした。

A. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

I. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

U. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法定上限を超える。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。例外適用時の要件として考慮される。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-031 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「1か月単位の変形労働時間制に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運送業では一切利用できない。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「通常のトラック運転者について、1日の拘束時間を13時間から延長する場合の最大拘束時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「原則15時間までである。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

A. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

I. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

U. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送業で一律禁止ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。通常の最大拘束時間は15時間である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-032 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「変形労働時間制を適正に運用するための考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「会社が毎朝口頭で変更すれば事前の定めは不要である。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「1日の拘束時間が14時間を超える勤務について、トラック運転者の改善基準告示の考え方として適切なものはどれか。」に対し、回答「15時間以内なら14時間超が毎日続いても問題ない。」とした。

A. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

I. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

U. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

E. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。制度ごとの定め方・手続が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。長時間拘束の常態化は避けるべきである。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-033 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「トラック運転者が荷主先で荷役開始の指示を待っており、その間も会社の指示下にあつて自由に場所を離れられない。この待機時間について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「使用者の指揮命令下に置かれている待機であれば、労働時間に該当し得る。」とした。
- B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「改善基準告示でトラック運転者の「1日」の拘束時間を判定する場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「午前0時から午後12時までの暦日だけで判定する。」とした。
- ア. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。
- イ. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- ウ. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- エ. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。労働時間かは使用者の指揮命令下にあるか等の実態で判断する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。単純な暦日区切りではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-034 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「変形労働時間制等の特例がない労働者が、ある日に9時間働いた。週の総労働時間が40時間以下でも、その日の扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「1日10時間を超えた部分だけ時間外となる。」とした。
- B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「労使協定による延長の例外を用いていない月に、あるトラック運転者の拘束時間が289時間となった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「年3,300時間以内なら各月の上限は問われない。」とした。
- ア. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- イ. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。
- ウ. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。
- エ. 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。1日基準は8時間。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。年上限と月上限の双方を守る必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-035 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休憩・休日（週休制）】設問「1日の労働時間が7時間30分である場合、法定休憩時間の最低基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「休憩は不要。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「労使協定により例外運用をしている会社で、各月の拘束時間は310時間以内だが、年間総拘束時間が3,420時間となった。正しい評価はどれか。」に対し、回答「月上限を守っていても、例外の年間上限3,400時間を超えるため基準を満たさない。」とした。

A. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

I. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

U. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。6時間を超えている。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。月上限と年上限は両方守る必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-036 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休憩・休日（週休制）】設問「1日の労働時間が9時間である場合、必要な法定休憩時間の最低時間はどれか。」に対し、回答「少なくとも45分。対象区分が異なれば別の数値基準が適用される場合がある。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「長距離貨物運送の特例にも2人乗務特例にも該当しない勤務で、始業から終業までの拘束時間が15時間20分となった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「16時間以内なので通常勤務でも基準を満たす。」とした。

A. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

I. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

U. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

E. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り／拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。45分は6時間超8時間以下の場合。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。16時間は長距離貨物運送の限定特例である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-037 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休憩・休日（週休制）】設問「休憩時間の与え方に関する原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「労働時間の途中に与え、原則として労働者に自由に利用させなければならない。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「2024年4月以降のトラック運転者の拘束時間基準について、旧基準との比較で正しいものはどれか。」に対し、回答「年拘束時間は3,300時間から3,516時間へ延長された。」とした。

A. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

I. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

U. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。休憩は労働時間の途中に与え自由利用させるのが原則。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。改正方向が逆である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-038 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休憩・休日（週休制）】設問「労働基準法上の休日付与の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「年間12日をまとめて与えればよい。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「月拘束時間を310時間まで延長する例外運用について、最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「284時間超が6か月連続しても年6か月以内ならよい。」とした。

A. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

I. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

U. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

E. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。年間一括12日という制度ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。284時間超は3か月を超えて連続させない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-039 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休憩・休日（週休制）】設問「週休2日制の会社で、日曜日を法定休日、土曜日を所定休日としている。土曜日に働かせた場合の説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「所定休日労働には割増賃金が発生することは絶対にない。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「ある日の労働時間が10時間、途中の休憩時間が1時間30分であった。ほかに拘束される時間がない場合、改善基準告示上の拘束時間の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「労働時間10時間と休憩1時間30分を合わせ、11時間30分の拘束時間として扱う。」とした。

A. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

イ. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

ウ. 休憩・休日（週休制）の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

エ. 休憩・休日（週休制）の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。週40時間を超えれば時間外割増が必要な場合がある。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。拘束時間は労働時間と休憩時間を合わせる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-040 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【36協定】設問「法定労働時間を超える時間外労働又は法定休日労働をさせる場合の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「就業規則に残業の可能性を書くだけで36協定は不要となる。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「運行管理上、改善基準告示の拘束時間を確認する方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「日最大15時間だけ確認すれば月・年の集計は不要である。」とした。

A. 36協定の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

イ. 36協定の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

ウ. 36協定の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

エ. 36協定の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。就業規則だけでは代替できない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。日基準だけでは月・年の過重労働を防げない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-041 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【36協定】設問「時間外労働の原則的な上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「月45時間・年360時間。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「繁忙期のため月拘束時間が284時間を超える見込みとなった。運送事業者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「繁忙期であれば法的手続なしに320時間まで延長する。」とした。

ア. 36協定の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

イ. 36協定の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

ウ. 36協定の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

エ. 36協定の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。36協定の原則的限度時間は月45時間・年360時間である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。繁忙だけで旧上限を自由に使えない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-042 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【36協定】設問「トラック運転者について、臨時的な特別の事情があり特別条項付き36協定を適法に締結・届出して時間外労働を行わせる場合、2024年4月以降の年上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「時間外労働は年720時間以内で自動車運転者にも例外はない。」とした。

B.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「1日の拘束時間を16時間まで延長できる可能性があるのは、どのような場合か。」に対し、回答「運転者が希望すれば長距離が否かにかかわらず16時間まで認められる。」とした。

ア. 36協定の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

イ. 36協定の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

ウ. 36協定の回答は誤り / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい。

エ. 36協定の回答は正しい / 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。一般労働者の年720時間とは異なる特例がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。本人希望だけで特例要件を満たさない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-043 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【36協定】設問「過半数労働組合がない事業場で36協定を締結する際の過半数代表者について、適切なものはどれか。」に対し、回答「代表者の選出手続は不要で会社印だけで成立する。」とした。

B.【休息期間】設問「改善基準告示における「休息期間」の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「勤務終了から次の始業までの、使用者の拘束を受けない期間である。」とした。

A. 36協定の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

I. 36協定の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

U. 36協定の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

E. 36協定の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。適法な労働者側当事者が必要。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。休息期間は勤務終了後から次の始業までの自由な期間である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-044 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【年次有給休暇】設問「通常の労働者が雇入れの日から6か月継続勤務し、その期間の全労働日の8割以上出勤した場合、原則として最初に付与される年次有給休暇の日数はどれか。」に対し、回答「7日。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

B.【休息期間】設問「通常のトラック運転者に勤務終了後与える休息期間の現行基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「継続8時間以上であれば常に現行の原則を満たす。」とした。

A. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

I. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

U. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

E. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。初回付与は7日ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。8時間は一定の長距離貨物運送特例でのみ認められる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-045 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【年次有給休暇】設問「通常の労働者が出勤率要件を満たし、継続勤務1年6か月となった場合に付与される年次有給休暇の日数として正しいものはどれか。」に対し、回答「11日。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

B.【休息期間】設問「ある運転者の勤務終了が22時、次の始業が翌日7時であった。通常勤務としての評価はどれか。」に対し、回答「休息期間は7時間なので基準違反である。」とした。

ア. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

イ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

ウ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

エ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。通常労働者は6か月で10日、1年6か月で11日。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。計算誤りである。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-046 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【年次有給休暇】設問「通常の労働者が継続勤務6年6か月以上で出勤率要件を満たす場合、法定の年次有給休暇付与日数は原則何日か。」に対し、回答「18日。対象区分が異なれば別の数値基準が適用される場合がある。」とした。

B.【休息期間】設問「通常勤務で、勤務終了後8時間30分しか休息期間を確保できなかった。最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「休息期間は月平均で判定するため1回だけなら問題ない。」とした。

ア. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

イ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

ウ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

エ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。18日は5年6か月時点。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。1回ごとの休息期間を確認する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-047 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【年次有給休暇】設問「法定の年次有給休暇が10日以上付与される労働者について、使用者の年5日の取得確保義務に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「必ず使用者が5日すべてを一方的に指定し本人取得日は算入できない。」とした。

B.【休息期間】設問「宿泊を伴う長距離貨物運送の特例で、休息期間を8時間まで短縮できる回数として正しいものはどれか。」に対し、回答「1週につき2回までである。」とした。

ア. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

イ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

ウ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

エ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。本人取得日等も算入される。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。一定の長距離貨物運送では週2回まで8時間以上に短縮できる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-048 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【年次有給休暇】設問「時間単位の年次有給休暇に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「労使協定があれば全日数を無制限に時間単位化できる。」とした。

B.【休息期間】設問「長距離貨物運送の一の運行で、休息期間のいずれかが9時間を下回った場合、運行終了後に必要な対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「継続9時間で必ず足りる。」とした。

ア. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

イ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

ウ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

エ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。無制限ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。特例後の回復休息として12時間以上が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-049 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【年次有給休暇】設問「労使協定による年次有給休暇の計画的付与に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「各労働者の年休日数のうち、少なくとも5日は本人が自由に取得できるよう残し、それを越える部分を計画的付与の対象とできる。」とした。

B.【休息期間】設問「勤務終了後に11時間の休息期間を確保した場合の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「11時間は長すぎるため拘束時間に算入する。」とした。

ア. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

イ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

ウ. 年次有給休暇の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

エ. 年次有給休暇の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。計画的付与は5日を越える部分について労使協定により行う。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息は拘束を受けない時間である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-050 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限】設問「児童の使用に関する労働基準法上の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「最低年齢規制は運送業には適用されない。」とした。

B.【休息期間】設問「休息期間を分割する特例と通常の休息期間の関係として正しいものはどれか。」に対し、回答「分割すれば各回1時間でもよい。」とした。

ア. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

イ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

ウ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

エ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送業も対象。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。各回には3時間以上等の条件がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-051 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限】設問「満18歳に満たない年少者の深夜業について、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「割増賃金を払えば深夜業制限はなくなる。」とした。

B.【休息期間】設問「運転者が休息期間中に会社から荷物の確認作業を命じられた場合の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「使用者の拘束を受ける作業時間は休息期間とはいえず、休息期間の連続性や長さを再確認する必要がある。」とした。

ア. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

イ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

ウ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

エ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。割増賃金で就業制限は消えない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。休息期間は使用者の拘束を受けないことが必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-052 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限】設問「妊産婦の就業制限に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「出産翌日から本人希望だけで通常勤務させてよい。」とした。

B.【休息期間】設問「休息期間と1日の拘束時間を組み合わせた運行計画として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「休息期間は9時間未満でも月平均11時間ならよい。」とした。

ア. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。

イ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。

ウ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。

エ. 最低年齢・年少者・妊産婦の就業制限の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。産後6週間までは原則就業不可。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。月平均で最低基準を代替できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-053 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「就業規則を作成し、所轄労働基準監督署長へ届け出る義務が生じる事業場の基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「常時10人以上の労働者を使用する事業場」とした。
- B.【休息期間】設問「旧制度と現行制度の休息期間の違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「現行制度でも通常休息は一律8時間のままである。」とした。
- ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 休息期間の回答は誤り。
- イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 休息期間の回答は正しい。
- ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 休息期間の回答は正しい。
- エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 休息期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。常時10人以上の労働者を使用する事業場では作成・届出が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。通常の基準は旧8時間から変更された。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-054 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「就業規則に必ず記載しなければならない事項として適切なものはどれか。」に対し、回答「主要取引先の名称と売上高」とした。
- B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「トラック運転者の運転時間の限度として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転時間には上限がない。」とした。
- ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。
- イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。
- ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。
- エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。取引先・売上高は必須事項ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。明確な基準がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-055 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「常時10人以上の労働者を使用する営業所で就業規則を変更する場合、労働者側への手続として正しいものはどれか。」に対し、回答「使用者が指名した管理職1名の署名で常に足りる。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2週間の運転実績を集計するとき、貨物トラック運転者について守るべき週平均の基準はどれか。」に対し、回答「2週を平均して1週当たり44時間を超えない。」とした。

ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。適正な過半数代表者が必要。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。トラックは2週平均1週44時間以内である。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-056 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「就業規則の周知方法として適切なものはどれか。」に対し、回答「人事担当者しか開けない引出しに保管すれば周知となる。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「ある2日間の運転時間が1日目10時間、2日目8時間であった。2日平均の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「平均は10時間なので基準違反である。」とした。

ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。閲覧制限のある状態は不適切。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。計算誤りである。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-057 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「労働者名簿に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「使用者は、原則として各事業場ごとに労働者名簿を調製し、必要事項を記入しなければならない。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「1日目に10時間30分、翌日に8時間運転したケースを2日平均で判定した。改善基準告示上の結論として適切なものはどれか。」に対し、回答「合計18時間30分なら20時間未満なので問題ない。」とした。

ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。労働者名簿は法定帳簿として事業場ごとに整備する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。20時間基準はない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-058 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「賃金台帳に記入すべき事項として適切なものはどれか。」に対し、回答「家族全員の預金残高」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「第1週の運転時間が46時間、第2週が42時間であった。2週平均の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「2週合計100時間以下なら常に問題ない。」とした。

ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。家族預金は法定事項ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。100時間という基準ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-059 難易度2
次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。
A.【就業規則・労働者名簿・賃金台帳】設問「労働者名簿や賃金台帳など労働基準法上の重要書類の保存期間について、現行の法体系を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「すべて一律1年間だけ保存すればよい。」とした。
B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「第1週45時間、第2週44時間の運転時間であった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「2週平均は44.5時間となり、44時間を超えるため基準を満たさない。」とした。
ア. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。
イ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。
ウ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は誤り / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。
エ. 就業規則・労働者名簿・賃金台帳の回答は正しい / 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

答え・解説
正答：ウ
ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。
イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。
ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。
エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。1年一律ではない。
Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。2週平均44.5時間は基準超過である。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-060 難易度1
トラック運転者の運転時間について、2週間を平均した1週当たりの上限として正しいものはどれか。
ア. 40時間
イ. 48時間
ウ. 60時間
エ. 44時間

答え・解説
正答：エ
ア：誤り。トラックの2週平均基準ではない。
イ：誤り。48時間ではない。
ウ：誤り。60時間ではない。
エ：正しい。2週平均で1週44時間以内である。
総合解説：トラックの運転時間は2日平均1日9時間以内、2週平均1週44時間以内で管理する。

UK04-PDF-061 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「改善基準告示におけるトラック運転者の「拘束時間」の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「始業から終業までの、労働時間と休憩時間を合わせた使用者に拘束されている時間である。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運転時間の2日平均基準を確認する対象として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「休息期間も運転時間に算入する。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。拘束時間は労働時間と休憩時間を合わせた、使用者に拘束される時間である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息は運転時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-062 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「トラック運転者の1年の総拘束時間について、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「1年3,600時間以内を原則とする。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運転時間の基準と36協定の関係として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者本人の同意があれば2週平均44時間を超えてよい。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。3,600時間ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。本人同意で基準を外せない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-063 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「ある営業所が月間の運行計画を作成している。例外の労使協定を用いない場合、運転者1人当たりの月間拘束時間を何時間以内に収めるべきか。」に対し、回答「1か月310時間以内を労使協定なしで常に認める。」とした。
- B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2週の運転時間が合計88時間であった。2週平均1週当たりの運転時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「44時間であり、上限ちょうどとなる。」とした。
- ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。
- イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。
- ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。
- エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。310時間は一定の例外要件を満たす場合の上限である。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $88 \div 2 = 44$ 時間で上限内である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-064 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「労使協定により拘束時間を延長する例外を用いる場合の年間・月間上限の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「年間3,516時間以内、1か月320時間以内である。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。
- B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2日間の合計運転時間が18時間であった場合、2日平均基準の観点から正しいものはどれか。」に対し、回答「合計18時間は基準の9時間を超えるため違反である。」とした。
- ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。
- イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。
- ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。
- エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。これは旧基準の数値を含む。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。基準は1日当たりの2日平均。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-065 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「トラック運転者の1か月の拘束時間を例外的に284時間を超えて延長する場合、その月数に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「1年のうち6か月までに限られる。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運転時間の判定で、1日の拘束時間が短ければ運転時間基準を確認しなくてよいという説明について正しいものはどれか。」に対し、回答「正しく、月284時間以内なら週運転時間は問われない。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

I. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

U. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

E. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。月310時間までの延長は年6か月までである。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。月拘束時間と週運転時間は別。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-066 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「ある運送会社が、トラック運転者の月拘束時間を285時間以上とする月を4か月連続で計画している。現行基準に照らした評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「310時間以下であれば何か月連続でもよい。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2日平均運転時間と連続運転時間の違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「どちらも同じ4時間上限を意味する。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

I. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

U. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

E. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。月上限だけでなく連続月数の制約もある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。同じ基準ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-067 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「拘束時間の例外を用いる月における時間外・休日労働について、改善基準告示上の取扱いとして適切なものはどれか。」に対し、回答「1か月80時間を1分でも超えれば改善基準告示上必ず直ちに違反となる。」とした。

B.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運行計画を作る際の運転時間管理として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「個々の日の運転予定だけでなく、前後2日間の平均と2週間の週平均を確認する。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

I. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り。

U. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

E. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。ここでの100時間未満は努力義務として示される。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。日・週の平均基準を両方確認する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-068 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「通常のトラック運転者について、1日の拘束時間を13時間から延長する場合の最大拘束時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「原則16時間までである。対象区分が異なれば別の数値基準が適用される場合がある。」とした。

B.【連続運転時間】設問「運転中断を一度も挟まずに走行できる時間について、トラック運転者に適用される基本ルールはどれか。」に対し、回答「1日の運転時間が9時間以内なら連続運転上限はない。対象区分が異なれば別の数値基準が適用される場合がある。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

I. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

U. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

E. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。16時間は一定の長距離貨物運送特例である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。総運転時間を守っても連続運転基準は別にある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-069 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「1日の拘束時間が14時間を超える勤務について、トラック運転者の改善基準告示の考え方として適切なものはどれか。」に対し、回答「14時間を超える回数をできるだけ少なくするよう努め、週2回までを目安とする。」とした。

B.【連続運転時間】設問「4時間の連続運転後に必要な運転中断について正しいものはどれか。」に対し、回答「合計20分でよい。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。最大15時間の範囲内でも14時間超の回数をできるだけ少なくする努力が求められる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。20分では足りない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-070 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「改善基準告示でトラック運転者の「1日」の拘束時間を判定する場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「会社が任意に選んだ12時間を1日とする。」とした。

B.【連続運転時間】設問「運転中断を分割して取る場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「1分休憩を30回取れば常に同じ扱いとなる。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。使用者が任意に変更できる基準ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。極端に短い中断の積上げは趣旨に合わない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-071 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「労使協定による延長の例外を用いていない月に、あるトラック運転者の拘束時間が289時間となった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「320時間未満なので旧基準により基準を満たす。」とした。

B.【連続運転時間】設問「「おおむね10分以上」の運転中断に関する説明として適切なものはどれか。」に対し、回答「10分未満の運転中断が3回以上連続しないこと等を意味する。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

I. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

U. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

E. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。旧基準を現行運用に使えない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。短すぎる中断を連続させる運用を避ける趣旨である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-072 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「労使協定により例外運用をしている会社で、各月の拘束時間は310時間以内だが、年間総拘束時間が3,420時間となった。正しい評価はどれか。」に対し、回答「年間3,600時間以内なら適法である。」とした。

B.【連続運転時間】設問「サービスエリア等が満車で駐車できず、やむを得ず4時間を超えて連続運転する場合の特例として正しいものはどれか。」に対し、回答「延長後は運転中断が不要になる。」とした。

A. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

I. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

U. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

E. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。現行の例外上限は3,400時間である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。延長後も必要な中断を確保する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-073 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「長距離貨物運送の特例にも2人乗務特例にも該当しない勤務で、始業から終業までの拘束時間が15時間20分となった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「通常の1日の最大拘束時間15時間を超えるため基準を満たさない。」とした。

B.【連続運転時間】設問「連続運転を4時間20分行ったが、途中で駐停車できない事情はなかった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「1日の運転時間が9時間以内なら問題ない。」とした。

ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。通常の最大拘束時間は15時間である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。総運転時間基準とは別。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-074 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「2024年4月以降のトラック運転者の拘束時間基準について、旧基準との比較で正しいものはどれか。」に対し、回答「年拘束時間は3,300時間から3,516時間へ延長された。」とした。

B.【連続運転時間】設問「連続運転3時間50分の後、15分の運転中断を取り、その後さらに10分運転した。連続運転時間の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「15分休めば必ず連続運転時間は完全にリセットされる。」とした。

ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。改正方向が逆である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。15分1回だけで十分とは限らない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-075 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「月拘束時間を310時間まで延長する例外運用について、最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「284時間超が6か月連続しても年6か月以内ならよい。」とした。
- B.【連続運転時間】設問「連続運転時間と荷役作業の関係について適切なものはどれか。」に対し、回答「運転を中断していても、その時間が実質的に運転者を休ませる中断として扱えるかを確認し、単なる運転停止だけで機械的に30分中断としない。」とした。
- ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。
- イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。
- ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。
- エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。284時間超は3か月を超えて連続させない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。運転中断の実態を踏まえて管理することが重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-076 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「ある日の労働時間が10時間、途中の休憩時間が1時間30分であった。ほかに拘束される時間がない場合、改善基準告示上の拘束時間の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「実運転時間だけを拘束時間とする。」とした。
- B.【連続運転時間】設問「4時間の連続運転に対し、10分・10分・10分の中断を適切に分散して確保した場合の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「10分を3回取れば1日の運転時間9時間基準も自動的に免除される。」とした。
- ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。
- イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。
- ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。
- エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転時間だけではなく、総運転時間基準は別に守る。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-077 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「運行管理上、改善基準告示の拘束時間を確認する方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「1日の上限だけでなく、1か月及び1年の総拘束時間もそれぞれ確認する。」とした。

B.【連続運転時間】設問「連続運転時間の管理をデジタコ等で行う際の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「月末に合計だけ見れば連続運転違反は判定できる。」とした。

ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。日・月・年の各基準を並行して管理する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。連続運転は個々の運行で確認する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-078 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「繁忙期のため月拘束時間が284時間を超える見込みとなった。運送事業者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主の要請があれば年間上限も無視する。」とした。

B.【連続運転時間】設問「連続運転4時間の中断と休息期間の違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「30分の運転中断を取ればその日の9時間以上の休息期間は不要となる。」とした。

ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。荷主要請で基準を無視できない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。勤務後の休息は別に必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-079 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間（1日・1か月・1年）】設問「1日の拘束時間を16時間まで延長できる可能性があるのは、どのような場合か。」に対し、回答「通常の市内配送であれば毎日16時間まで認められる。」とした。

B.【連続運転時間】設問「やむを得ない駐停車困難による30分延長特例を使った後の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「特例を常態化せず、駐停車可能となった時点で必要な運転中断を確保する。」とした。

ア. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

イ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

ウ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

エ. 拘束時間（1日・1か月・1年）の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。通常勤務の最大は15時間である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。特例は一時的な事情への対応であり、中断確保が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-080 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休憩期間】設問「改善基準告示における「休憩期間」の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「休憩時間と同じ意味である。」とした。

B.【連続運転時間】設問「連続運転時間の基準に関して、正しい組合せはどれか。」に対し、回答「原則2時間以内、中断は必ず60分連続。」とした。

ア. 休憩期間の回答は誤り／連続運転時間の回答は正しい。

イ. 休憩期間の回答は正しい／連続運転時間の回答は正しい。

ウ. 休憩期間の回答は正しい／連続運転時間の回答は誤り。

エ. 休憩期間の回答は誤り／連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休憩は拘束時間内にあるため休憩期間とは異なる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。トラックの一般基準ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-081 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【休息期間】設問「通常のトラック運転者に勤務終了後与える休息期間の現行基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「継続11時間以上与えるよう努めることを基本とし、9時間を下回らない。」とした。
- B.【連続運転時間】設問「運転者が4時間の連続運転直前に『あと20分で目的地だから』として中断を省略しようとしている。適切な運行管理者の判断はどれか。」に対し、回答「荷主が急いでいれば4時間基準は適用されない。」とした。
- ア. 休息期間の回答は正しい / 連続運転時間の回答は誤り。
- イ. 休息期間の回答は誤り / 連続運転時間の回答は正しい。
- ウ. 休息期間の回答は正しい / 連続運転時間の回答は正しい。
- エ. 休息期間の回答は誤り / 連続運転時間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。現行基準では11時間以上を基本とし、最低でも9時間を下回らない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主要請で基準は外れない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-082 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【休息期間】設問「ある運転者の勤務終了が22時、次の始業が翌日7時であった。通常勤務としての評価はどれか。」に対し、回答「休息期間は勤務終了から数えないので判定できない。」とした。
- B.【予期し得ない事象への対応】設問「事故、故障、災害等の通常予期し得ない事象に遭遇し、運行が遅延した場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者の口頭申告だけで全ての基準から除外できる。」とした。
- ア. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。
- イ. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。
- ウ. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。
- エ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。勤務終了から次の始業までで判定する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。客観的記録が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-083 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休息期間】設問「通常勤務で、勤務終了後8時間30分しか休息期間を確保できなかった。最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「6時間以上なら問題ない。」とした。

B.【予期し得ない事象への対応】設問「予期し得ない事象への対応時間を除外するために重要な要件として正しいものはどれか。」に対し、回答「事故・故障・災害等の通常予期し得ない事象により生じた遅延であり、客観的な記録により確認できること。」とした。

ア. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

イ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

ウ. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

エ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。6時間では足りない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。通常予期できない事象と客観的記録が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-084 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休息期間】設問「宿泊を伴う長距離貨物運送の特例で、休息期間を8時間まで短縮できる回数として正しいものはどれか。」に対し、回答「回数制限はない。」とした。

B.【予期し得ない事象への対応】設問「予期し得ない事象への対応後、勤務終了時の休息期間について正しいものはどれか。」に対し、回答「対応時間と同じ時間だけ休息期間を短縮できる。」とした。

ア. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

イ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

ウ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

エ. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。週2回という制限がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。自動的な短縮制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-085 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休息期間】設問「長距離貨物運送の一の運行で、休息期間のいずれかが9時間を下回った場合、運行終了後に必要な対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「継続12時間以上の休息期間を与える。」とした。

B.【予期し得ない事象への対応】設問「高速道路上で予期できない重大事故が発生し、通行止めにより長時間の遅延が生じた。事業者が特例を検討する際に最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「通行止めがあれば休息期間も含め全基準を無視する。」とした。

A. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

I. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

U. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

E. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。9時間未満の休息を特例で用いた場合、一の運行終了後に12時間以上の休息が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。除外対象は限定され、休息確保は必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-086 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休息期間】設問「勤務終了後に11時間の休息期間を確保した場合の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「11時間は長すぎるため拘束時間に算入する。」とした。

B.【予期し得ない事象への対応】設問「予期し得ない事象への対応時間を除くことができる規制の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「休息期間、賃金支払日、就業規則の届出」とした。

A. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

I. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

U. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

E. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息は拘束を受けない時間である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息期間を免除する制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-087 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【休息期間】設問「休息期間を分割する特例と通常の休息期間の関係として正しいものはどれか。」に対し、回答「分割すれば各回1時間でもよい。」とした。
- B.【予期し得ない事象への対応】設問「通常予測される繁忙期の渋滞を毎回『予期し得ない事象』として扱う運用について、最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「通常予期し得ない事象に限定された特例の趣旨に反し、恒常的・予測可能な遅延を一律に除外する運用は適切でない。」とした。
- ア. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。
- イ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は誤り。
- ウ. 休息期間の回答は誤り / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。
- エ. 休息期間の回答は正しい / 予期し得ない事象への対応の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。各回には3時間以上等の条件がある。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。通常予期できない事象への対応という限定要件を満たす必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-088 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【休息期間】設問「運転者が休息期間中に会社から荷物の確認作業を命じられた場合の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「電話での業務指示なら休息期間に影響しない。」とした。
- B.【休日労働の限度】設問「トラック運転者の休日労働の回数について、改善基準告示上の限度として正しいものはどれか。」に対し、回答「回数制限はない。」とした。
- ア. 休息期間の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は正しい。
- イ. 休息期間の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は正しい。
- ウ. 休息期間の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は誤り。
- エ. 休息期間の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。業務指示への対応は拘束性が生じる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。明確な限度がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-089 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休息期間】設問「休息期間と1日の拘束時間を組み合わせた運行計画として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「最大拘束時間だけを使い切る前提ではなく、勤務終了後に11時間以上の休息をできる限り確保できる計画とする。」とした。

B.【休日労働の限度】設問「ある運転者が第1週と第2週のそれぞれで1回ずつ休日労働をした。改善基準告示上の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「休日労働には回数制限がないため問題ない。」とした。

ア. 休息期間の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は誤り。

イ. 休息期間の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は正しい。

ウ. 休息期間の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は正しい。

エ. 休息期間の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。拘束時間と休息期間の双方を満たすように設計する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。回数制限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-090 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休息期間】設問「旧制度と現行制度の休息期間の違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「2024年改正で休息期間の基準は廃止された。」とした。

B.【休日労働の限度】設問「休日労働をさせる場合の拘束時間との関係について正しいものはどれか。」に対し、回答「休日労働を行えば月284時間の基準は自動的に310時間へ変わる。」とした。

ア. 休息期間の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は正しい。

イ. 休息期間の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は誤り。

ウ. 休息期間の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は正しい。

エ. 休息期間の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。基準は廃止されていない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。自動的な例外移行ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-091 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「トラック運転者の運転時間の限度として正しいものはどれか。」に対し、回答「1日ごとに必ず8時間を超えてはならない。」とした。

B.【休日労働の限度】設問「36協定を締結している事業場でのトラック運転者の休日労働について、最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「36協定があっても、改善基準告示の休日労働2週間に1回という限度等を別途守る必要がある。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は誤り。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は誤り。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。8時間は法定労働時間の原則と混同している。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。36協定と改善基準告示は双方を確認する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-092 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2週間の運転実績を集計するとき、貨物トラック運転者について守るべき週平均の基準はどれか。」に対し、回答「1か月平均で1週48時間を超えなければよい。」とした。

B.【休日労働の限度】設問「運行管理者が休日労働の予定を組む際の確認として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「休日労働日は運転時間の管理を行わなくてよい。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は正しい。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は正しい。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 休日労働の限度の回答は誤り。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 休日労働の限度の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。月平均ではなく2週平均である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休日労働日も運転時間管理が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-093 難易度2
次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。
A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「ある2日間の運転時間が1日目10時間、2日目8時間であった。2日平均の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「平均は9時間であり、運転時間の2日平均基準を満たす。」とした。
B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「改善基準告示で長距離貨物運送の特例を判断する際の「長距離貨物運送」の距離要件として正しいものはどれか。」に対し、回答「距離要件はない。」とした。
ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。
イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。
ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。
エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

答え・解説
正答：ア
ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。
イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。10時間と8時間の平均は9時間である。
Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。距離要件がある。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-094 難易度2
次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。
A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「1日目に10時間30分、翌日に8時間運転したケースを2日平均で判定した。改善基準告示上の結論として適切なものはどれか。」に対し、回答「2日目が8時間なので平均基準を満たす。」とした。
B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「1日の最大拘束時間を16時間まで延長できる長距離貨物運送特例の回数として正しいものはどれか。」に対し、回答「1か月につき20回までである。」とした。
ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。
イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。
ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。
エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

答え・解説
正答：イ
ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。
ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。一方の日が短くても平均が9時間超なら不可。
Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。月20回という基準ではない。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-095 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「第1週の運転時間が46時間、第2週が42時間であった。2週平均の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「平均は46時間なので違反である。」とした。

B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送の特例で休息期間を8時間以上とできる回数として正しいものはどれか。」に対し、回答「1週につき2回までである。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。計算誤り。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。一定要件の下で週2回まで8時間以上とできる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-096 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「第1週45時間、第2週44時間の運転時間であった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「両週とも45時間以下なので基準を満たす。」とした。

B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送の特例を利用するための運行条件として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者が大型免許を持っていれば運行条件は不要である。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。45時間以下という基準ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。免許種類が特例要件ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-097 難易度3

トラック運転者の運転時間基準の組合せとして正しいものはどれか。

- ア. 2日平均1日9時間以内・2週平均1週44時間以内
- イ. 2日平均1日12時間以内・2週平均1週60時間以内
- ウ. 1日8時間固定・4週平均1週40時間以内
- エ. 2日平均1日10時間以内・1か月平均1週48時間以内

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。トラックの基本的な運転時間基準である。

イ：誤り。いずれも上限が異なる。

ウ：誤り。改善基準告示のトラック運転時間基準ではない。

エ：誤り。基準期間・数値が異なる。

総合解説：トラックでは2日平均1日9時間、2週平均1週44時間をセットで確認する。

UK04-PDF-098 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運転時間の2日平均基準を確認する対象として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「休息期間も運転時間に算入する。」とした。

B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「1週間の運行のうち1回だけ走行距離300kmの配送が含まれ、他は全て500km以上であった。長距離貨物運送特例の適用について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「500km運行が多数なら300km運行は無視できる。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息は運転時間ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。短距離運行を無視できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-099 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運転時間の基準と36協定の関係として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者本人の同意があれば2週平均44時間を超えてよい。」とした。

B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送特例で1日の拘束時間を16時間とした場合、通常勤務との違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「通常の最大拘束時間15時間を超える特例であり、所定の長距離要件と週2回までの制限を満たす必要がある。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。本人同意で基準を外せない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。16時間は長距離貨物運送の限定特例。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-100 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2週の運転時間が合計88時間であった。2週平均1週当たりの運転時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「44時間を超えているので必ず違反である。」とした。

B.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送の特例を安全に運用する考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主要請があれば450km要件を無視してよい。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。上限ちょうどは超過ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主要請で法的要件は消えない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-101 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2日間の合計運転時間が18時間であった場合、2日平均基準の観点から正しいものはどれか。」に対し、回答「2日平均は9時間であり、当該基準の上限内である。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「トラック運転者の隔日勤務特例における2暦日の拘束時間の原則上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「2暦日で30時間まで認める。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。18÷2＝9時間である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。30時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-102 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運転時間の判定で、1日の拘束時間が短ければ運転時間基準を確認しなくてよいという説明について正しいものはどれか。」に対し、回答「正しく、休息11時間を確保すれば運転時間基準は免除される。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務特例を利用する場合の2週間の総拘束時間上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「168時間を超えない。対象区分が異なれば別の数値基準が適用される場合がある。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息確保で免除されない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。168時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-103 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「2日平均運転時間と連続運転時間の違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「2日平均9時間を守れば運転中断は不要である。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務の勤務終了後に与える休息期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「継続20時間以上である。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。連続運転時間の中断要件も守る必要がある。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。トラックの隔日勤務特例では勤務終了後20時間以上の休息が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-104 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転時間（2日平均・2週平均）】設問「運行計画を作る際の運転時間管理として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「当日だけ9時間以内なら週集計は不要である。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「フェリー乗船時間の改善基準告示上の原則的な取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「すべて運転時間として扱う。」とした。

ア. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

イ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

ウ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

エ. 運転時間（2日平均・2週平均）の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。週平均も必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-105 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「運転中断を一度も挟まずに走行できる時間について、トラック運転者に適用される基本ルールはどれか。」に対し、回答「原則4時間を超えない。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「フェリー乗船中の休息を必要な休息期間から減ずる場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「フェリーに1分乗れば下船後の休息は一切不要になる。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。
イ. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。
ウ. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。
エ. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。
イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。連続運転時間は原則4時間を超えない。
Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。極端な免除ではない。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-106 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「4時間の連続運転後に必要な運転中断について正しいものはどれか。」に対し、回答「合計10分でよい。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「通常の1人乗務でフェリー乗船時間が8時間を超える場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「乗船時間を全て連続運転時間として扱う。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。
イ. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。
ウ. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。
エ. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。
ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。10分だけでは足りない。
Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。乗船は原則休息として扱う。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-107 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「運転中断を分割して取る場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「分割する場合は必ず15分を2回に限られる。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「2人乗務の場合、フェリー乗船時間が何時間を超えると、原則として下船時刻から次の勤務が開始される取扱いとなるか。」に対し、回答「4時間を超える場合である。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。15分2回だけに限定されない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。2人乗務では4時間超が基準。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-108 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「「おおむね10分以上」の運転中断に関する説明として適切なものはどれか。」に対し、回答「必ず1回30分でなければならない。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務の運転者がフェリーを利用した。乗船時間が一定時間を超えると、下船時刻を次の勤務の始点として扱う。その基準時間はどれか。」に対し、回答「4時間を超える場合である。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の回答は正しい／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

エ. 連続運転時間の回答は誤り／隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。分割中断も認められる。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。4時間は2人乗務。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-109 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「サービスエリア等が満車で駐車できず、やむを得ず4時間を超えて連続運転する場合の特例として正しいものはどれか。」に対し、回答「やむを得ない場合に限り、連続運転時間を30分まで延長できる。」とした。

B.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務・フェリー特例を運用する際の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「24時間以内なら仮眠や回数制限は確認不要である。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は正しい / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の回答は誤り / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の回答は正しい / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は誤り / 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。駐車できない等のやむを得ない場合に30分まで延長できる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。拘束上限以外の条件もある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-110 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「連続運転を4時間20分行ったが、途中で駐車できない事情はなかった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「1日の運転時間が9時間以内なら問題ない。」とした。

B.【分割休息・2人乗務の特例】設問「継続9時間以上の休息期間を与えることが困難な場合の分割休息について、正しいものはどれか。」に対し、回答「1回1時間の休息を何度でも積み上げればよい。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。総運転時間基準とは別。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。各回の最低時間条件がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-111 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「連続運転3時間50分の後、15分の運転中断を取り、その後さらに10分運転した。連続運転時間の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「15分休めば必ず連続運転時間は完全にリセットされる。」とした。

B.【分割休息・2人乗務の特例】設問「分割休息の時間要件として正しいものはどれか。」に対し、回答「1回当たり継続3時間以上とし、2分割なら合計10時間以上、3分割なら合計12時間以上とする。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。15分1回だけで十分とは限らない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。各回3時間以上、2分割10時間以上、3分割12時間以上。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-112 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「連続運転時間と荷役作業の関係について適切なものはどれか。」に対し、回答「運転中断は走行距離だけで判定する。」とした。

B.【分割休息・2人乗務の特例】設問「トラック運転者が1台に2人以上乗務し、身体を伸ばして休息できる設備がある場合の最大拘束時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「通常勤務と同じ13時間を絶対に超えられない。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

エ. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。距離ではなく時間と中断で判定する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。2人乗務には特例がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-113 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「4時間の連続運転に対し、10分・10分・10分の中断を適切に分散して確保した場合の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「各回がおおむね10分以上で合計30分となるため、中断時間の基本要件を満たし得る。」とした。

B.【分割休息・2人乗務の特例】設問「2人乗務で一定要件を満たす車両内ベッド等を備える場合の更なる特例として正しいものはどれか。」に対し、回答「ベッドがあれば休息なしで毎日28時間まで認められる。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の回答は正しい / 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は誤り / 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。分割中断は認められ、各回と合計の要件を確認する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。条件なしの28時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-114 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「連続運転時間の管理をデジタコ等で行う際の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者本人に任せ、事業者は確認しなくてよい。」とした。

B.【労働条件の原則・均等待遇】設問「労働基準法が定める労働条件の基準について、正しいものはどれか。」に対し、回答「労働基準法は賃金だけの最低基準を定め、労働時間には最低基準を設けない。」とした。

ア. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事業者側の管理も必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。労働時間、休憩、休日、年休なども規律する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-115 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「連続運転4時間の中断と休息期間の違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「休息期間は必ず4時間ごとに取る。」とした。

B.【労働条件の原則・均等待遇】設問「労働基準法第3条の均等待遇に関する説明として、正しいものはどれか。」に対し、回答「使用者は、労働者の国籍、信条又は社会的身分を理由として、賃金、労働時間その他の労働条件について差別的取扱いをしてはならない。」とした。

A. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息期間は勤務終了後から次の始業まで。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。第3条は国籍、信条又は社会的身分を理由とする労働条件上の差別的取扱いを禁止する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-116 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「やむを得ない駐車困難による30分延長特例を使った後の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「4時間30分走った後もそのまま運転を続けてよい。」とした。

B.【労働条件の原則・均等待遇】設問「運送会社が「法定最低基準を守れば十分」として、従来より有利だった休暇制度を法定最低水準まで一律に引き下げようとしている。労働基準法第1条の趣旨に照らして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「労働基準法は労働条件の引下げを積極的に推奨している。」とした。

A. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

エ. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。延長後も無制限運転は不可。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法の趣旨は労働条件の維持・向上である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-117 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「連続運転時間の基準に関して、正しい組合せはどれか。」に対し、回答「原則4時間以内、運転中断は1回おおむね10分以上かつ合計30分以上。」とした。

B.【労働条件の原則・均等待遇】設問「労働基準法上の「労働者」に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「契約名称が業務委託なら、実態にかかわらず労働者にはならない。」とした。

A. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

I. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

U. 連続運転時間の回答は正しい / 労働条件の原則・均等待遇の回答は正しい。

E. 連続運転時間の回答は誤り / 労働条件の原則・均等待遇の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。現行の基本基準を正しく組み合わせている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。契約名ではなく実態で判断される。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-118 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間】設問「運転者が4時間の連続運転直前に『あと20分で目的地だから』として中断を省略しようとしている。適切な運行管理者の判断はどれか。」に対し、回答「目的地まで30分以内なら常に延長できる。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「運送会社が新たに運転者を雇い入れる場合、労働条件の明示時期として正しいものはどれか。」に対し、回答「試用期間終了時でよい。」とした。

A. 連続運転時間の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

I. 連続運転時間の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

U. 連続運転時間の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

E. 連続運転時間の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。そのような一般例外はない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。試用期間でも契約締結時の明示が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-119 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【予期し得ない事象への対応】設問「事故、故障、災害等の通常予期し得ない事象に遭遇し、運行が遅延した場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「遅延した時間は理由を問わずすべて月拘束時間から自動的に除外できる。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「労働契約締結時に明示すべき労働条件のうち、原則として書面等による明示が必要な事項として適切なものはどれか。」に対し、回答「賃金の決定・計算・支払方法、締切日及び支払時期」とした。

A. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

イ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

ウ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。無条件に全時間を除外する制度ではない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。賃金に関する主要事項は明示が必要である。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-120 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【予期し得ない事象への対応】設問「予期し得ない事象への対応時間を除外するために重要な要件として正しいものはどれか。」に対し、回答「記録を残さず後日推測で時間を決めてもよい。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「現在の労働条件明示ルールに関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「有期契約でも更新上限の有無や内容は一切明示しなくてよい。」とした。

A. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

イ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

ウ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

エ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。客観的記録による確認が必要。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。有期契約では更新上限等も現行ルールの対象となる。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-121 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【予期し得ない事象への対応】設問「予期し得ない事象への対応後、勤務終了時の休息期間について正しいものはどれか。」に対し、回答「特例を用いても、勤務終了後は通常どおり11時間以上を与えるよう努め、9時間を下回らない休息期間を確保する。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「労働契約の一部が労働基準法で定める基準に達しない場合、その部分の扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「労働者が署名していれば法定基準を下回る部分も有効となる。」とした。

ア. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

イ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

ウ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。対応後も通常どおりの休息期間を与える。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。署名で強行規定を下回ることはできない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-122 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【予期し得ない事象への対応】設問「高速道路上で予期できない重大事故が発生し、通行止めにより長時間の遅延が生じた。事業者が特例を検討する際に最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「通行止めがあれば休息期間も含め全基準を無視する。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「一定の事業の完了に必要な期間を定める場合等を除く有期労働契約の契約期間について、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「使用者が希望すれば期間上限はない。」とした。

ア. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

イ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

ウ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。除外対象は限定され、休息確保は必要。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。有期契約には法定上限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-123 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【予期し得ない事象への対応】設問「予期し得ない事象への対応時間を除くことができる規制の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「休息期間、賃金支払日、就業規則の届出」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「運転者が業務上の負傷により療養のため休業している。使用者の解雇制限に関する原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「療養のため休業する期間及びその後30日間は、原則として解雇してはならない。」とした。

ア. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

イ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

ウ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休息期間を免除する制度ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。業務上の傷病による療養休業期間とその後30日間には解雇制限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-124 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【予期し得ない事象への対応】設問「通常予測される繁忙期の渋滞を毎回『予期し得ない事象』として扱う運用について、最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「繁忙期であれば全て自動的に対象となる。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「使用者が労働者を解雇しようとする場合の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「7日前に予告すれば手当は不要である。」とした。

ア. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

イ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

ウ. 予期し得ない事象への対応の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

エ. 予期し得ない事象への対応の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。繁忙期の予測可能性を無視できない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。不足する23日分の予告手当が必要となるのが原則。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-125 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休日労働の限度】設問「トラック運転者の休日労働の回数について、改善基準告示上の限度として正しいものはどれか。」に対し、回答「2週間に1回を超えない。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「使用者が労働者に対し、解雇日の20日前に解雇予告をした。ほかに例外事由がない場合、必要となる解雇予告手当の日数として正しいものはどれか。」に対し、回答「30日以上。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

ア. 休日労働の限度の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

イ. 休日労働の限度の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

ウ. 休日労働の限度の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 休日労働の限度の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。休日労働は2週間に1回が限度である。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。20日前に予告しているため30日分全額ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-126 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休日労働の限度】設問「ある運転者が第1週と第2週のそれぞれで1回ずつ休日労働をした。改善基準告示上の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「各週1回なので常に基準を満たす。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「労働者の責に帰すべき事由を理由に解雇予告制度の適用除外を主張する場合の説明として適切なものはどれか。」に対し、回答「労働者が反論しなければどのような理由でも予告制度は適用されない。」とした。

ア. 休日労働の限度の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

イ. 休日労働の限度の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

ウ. 休日労働の限度の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 休日労働の限度の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。週ごとに1回ではなく2週間で1回。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。反論の有無で法定義務が消えるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-127 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休日労働の限度】設問「休日労働をさせる場合の拘束時間との関係について正しいものはどれか。」に対し、回答「休日労働中は連続運転時間の基準も適用されない。」とした。

B.【労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）】設問「運送会社が運転者との労働契約に「1年以内に退職した場合は一律30万円を違約金として支払う」と定めることについて、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「労働契約の不履行について違約金を定め、又は損害賠償額を予定する契約は労働基準法上禁止される。」とした。

ア. 休日労働の限度の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

イ. 休日労働の限度の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は誤り。

ウ. 休日労働の限度の回答は誤り / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

エ. 休日労働の限度の回答は正しい / 労働契約（明示・解雇制限・解雇予告）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。連続運転基準も守る。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。労働基準法第16条は違約金や損害賠償額の予定を禁止する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-128 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休日労働の限度】設問「36協定を締結している事業場でのトラック運転者の休日労働について、最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「36協定があれば拘束時間上限も適用されない。」とした。

B.【賃金支払5原則】設問「運転者本人から「今月の賃金は家族に直接渡してほしい」と申し出があった。賃金支払の原則に照らした対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「会社の判断で同僚に支払ってよい。」とした。

ア. 休日労働の限度の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は正しい。

イ. 休日労働の限度の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は正しい。

ウ. 休日労働の限度の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は誤り。

エ. 休日労働の限度の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。拘束時間基準は残る。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。同僚への支払いは直接払いではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-129 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【休日労働の限度】設問「運行管理者が休日労働の予定を組む際の確認として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「直前の2週間の休日労働実績を確認し、2週間に1回を超えないようにするとともに拘束時間・休息期間も確認する。」とした。

B.【賃金支払5原則】設問「賃金の全額払いの原則に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「社内親睦会費は労使協定等がなくても必ず控除できる。」とした。

ア. 休日労働の限度の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は誤り。

イ. 休日労働の限度の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は正しい。

ウ. 休日労働の限度の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は正しい。

エ. 休日労働の限度の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。判定期間と他の基準を合わせて管理する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法令に基づかない控除には要件がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-130 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「改善基準告示で長距離貨物運送の特例を判断する際の「長距離貨物運送」の距離要件として正しいものはどれか。」に対し、回答「走行距離が300km以上である。」とした。

B.【賃金支払5原則】設問「通常の月例賃金の支払方法として、労働基準法上の原則に最も適合するものはどれか。」に対し、回答「半年に1回まとめて支払う。」とした。

ア. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は正しい。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は誤り。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は正しい。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。300kmではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。通常賃金の半年一括払いは原則に反する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-131 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「1日の最大拘束時間を16時間まで延長できる長距離貨物運送特例の回数として正しいものはどれか。」に対し、回答「1週につき毎日である。」とした。

B.【賃金支払5原則】設問「賃金の支払方法について、現在の制度に照らして正しいものはどれか。」に対し、回答「原則は通貨払いだが、一定要件を満たす資金移動業者の口座への賃金のデジタル払いも、労働者の同意等を満たせば可能である。」とした。

A. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は誤り。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は誤り。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は正しい。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。常用できない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。指定資金移動業者等の要件と労働者の同意等を満たす場合にデジタル払いが可能である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-132 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送の特例で休息期間を8時間以上とできる回数として正しいものはどれか。」に対し、回答「回数制限なく8時間でよい。」とした。

B.【賃金支払5原則】設問「運送会社が月例賃金を銀行口座へ振り込む場合の説明として適切なものはどれか。」に対し、回答「会社指定口座しか認めず労働者の意思を考慮しなくてよい。」とした。

A. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は正しい。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は正しい。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 賃金支払5原則の回答は誤り。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 賃金支払5原則の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。常時8時間は認められない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。労働者の同意等を無視してよいわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-133 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送の特例を利用するための運行条件として正しいものはどれか。」に対し、回答「1週間における運行がすべて長距離貨物運送で、一の運行における休息期間が住所地以外の場所である。」とした。

B.【休業手当・出来高払保障給】設問「使用者の責に帰すべき事由による休業の場合、休業期間中に支払うべき休業手当の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「平均賃金の40%以上。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

A. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。週的全運行と住所地以外の休息という要件がある。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。40%では足りない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-134 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送特例で8時間の休息期間を利用した運行がある場合、一の運行終了後の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「運行終了後の追加休息は不要である。」とした。

B.【休業手当・出来高払保障給】設問「1日8時間勤務の労働者について、会社都合で4時間だけ休業させ、残り4時間分の賃金としてその日の平均賃金の30%相当額を支払った。労働基準法上の休業手当の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「一部休業には第26条は適用されない。」とした。

A. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。追加休息が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。一部時間の休業も対象となり得る。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-135 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「1週間の運行のうち1回だけ走行距離300kmの配送が含まれ、他は全て500km以上であった。長距離貨物運送特例の適用について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「500km運行が多数なら300km運行は無視できる。」とした。

B.【休業手当・出来高払保障給】設問「出来高払制その他の請負制で使用する労働者の賃金について、正しいものはどれか。」に対し、回答「使用者は労働時間に応じ一定額の賃金を保障しなければならない。」とした。

ア. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。短距離運行を無視できない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。出来高払制等では労働時間に応じ一定額の賃金を保障する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-136 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送特例で1日の拘束時間を16時間とした場合、通常勤務との違いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「通常勤務でも毎日16時間まで認められる。」とした。

B.【休業手当・出来高払保障給】設問「「休業手当」と「休業補償」の説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「休業手当は労働災害時だけに支払われる。」とした。

ア. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は正しい。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 休業手当・出来高払保障給の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。通常上限は15時間。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。休業手当は使用者の責に帰すべき休業が問題。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-137 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【宿泊を伴う長距離貨物運送の特例】設問「長距離貨物運送の特例を安全に運用する考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「16時間拘束や8時間休息を通常運用の標準にせず、要件を満たす場合に限定し、運行終了後の12時間休息等も確実に管理する。」とした。

B.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「1か月60時間以下の法定時間外労働に対する割増賃金率の最低基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「15%以上。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

ア. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

イ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

ウ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

エ. 宿泊を伴う長距離貨物運送の特例の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。特例は限定運用し回復休息まで管理する。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。15%では足りない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-138 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「トラック運転者の隔日勤務特例における2暦日の拘束時間の原則上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「2暦日で18時間を超えない。」とした。

B.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「法定休日に労働させた場合の割増賃金率の最低基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「50%以上。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。18時間ではない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法定休日労働の最低率自体は50%ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-139 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務特例を利用する場合の2週間の総拘束時間上限として正しいものはどれか。」に対し、回答「100時間を超えない。数値基準は、対象となる車両・業務・期間を確認した上で適用する。」とした。

B.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「労働基準法上、原則として深夜労働の割増賃金が必要となる時間帯と最低割増率の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「午後10時から午前5時まで・25%以上。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。100時間ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。深夜は原則22時から5時までで25%以上の割増が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-140 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務の勤務終了後に与える休息期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「継続9時間以上で足りる。」とした。

B.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「法定時間外労働が午後10時以降の深夜時間帯にも及んだ。1か月60時間超の部分ではない場合、その時間帯の最低賃金率として正しいものはどれか。」に対し、回答「通常の1時間当たり賃金の135%以上。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り／時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。隔日勤務ではより長い休息が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。135%は法定休日労働の基本率。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-141 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「フェリー乗船時間の改善基準告示上の原則的な取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「原則として休息期間として取り扱う。」とした。

B.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「1か月の法定時間外労働が60時間を超えた部分の割増賃金率について、現行制度として正しいものはどれか。」に対し、回答「35%以上で企業規模にかかわらずそれ以上にはならない。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。フェリー乗船時間は原則休息期間として扱う。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。35%は法定休日労働の基本率。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-142 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「フェリー乗船中の休息を必要な休息期間から減ずる場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「下船後の休息時間にはどのような下限もない。」とした。

B.【時間外・休日・深夜の割増賃金】設問「法定休日の午後10時から深夜時間帯に労働させた場合、その時間帯の最低賃金率として正しいものはどれか。」に対し、回答「通常の1時間当たり賃金の150%以上。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 時間外・休日・深夜の割増賃金の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。下船後の休息にも条件がある。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。150%は通常時間外 + 深夜。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-143 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「通常の1人乗務でフェリー乗船時間が8時間を超える場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「下船後24時間は必ず勤務禁止となる。」とした。

B.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「原則的な法定労働時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「1日8時間、1週40時間。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。24時間勤務禁止という基準ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。休憩を除き原則1日8時間・1週40時間。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-144 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「2人乗務の場合、フェリー乗船時間が何時間を超えると、原則として下船時刻から次の勤務が開始される取扱いとなるか。」に対し、回答「20時間を超える場合である。現行基準と改正前の旧基準を混同しないことが必要である。」とした。

B.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「1か月単位の変形労働時間制に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「導入すると休憩・休日規定が一切適用されない。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。20時間は隔日勤務の場合の基準。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。他の規制が消えるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-145 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務の運転者がフェリーを利用した。乗船時間が一定時間を超えると、下船時刻を次の勤務の始点として扱う。その基準時間はどれか。」に対し、回答「20時間を超える場合である。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

B.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「変形労働時間制を適正に運用するための考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「会社が毎朝口頭で変更すれば事前の定めは不要である。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。隔日勤務では20時間超が基準。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。制度ごとの定め方・手続が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-146 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）】設問「隔日勤務・フェリー特例を運用する際の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「24時間以内なら仮眠や回数制限は確認不要である。」とした。

B.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「トラック運転者が荷主先で荷役開始の指示を待っており、その間も会社の指示下において自由に場所を離れられない。この待機時間について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主先の待機は法律上必ず労働時間から除外される。」とした。

ア. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

イ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

ウ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

エ. 隔日勤務・フェリー乗船の特例（トラック）の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。拘束上限以外の条件もある。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。場所だけで一律除外されない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-147 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【分割休息・2人乗務の特例】設問「継続9時間以上の休息期間を与えることが困難な場合の分割休息について、正しいものはどれか。」に対し、回答「1回1時間の休息を何度でも積み上げればよい。」とした。

B.【法定労働時間・変形労働時間制】設問「変形労働時間制等の特例がない労働者が、ある日に9時間働いた。週の総労働時間が40時間以下でも、その日の扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「原則として1日8時間を超えた1時間は法定時間外労働となる。」とした。

ア. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

イ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は誤り。

ウ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

エ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 法定労働時間・変形労働時間制の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。各回の最低時間条件がある。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。原則は1日8時間と1週40時間の双方で判定する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-148 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【分割休息・2人乗務の特例】設問「分割休息の時間要件として正しいものはどれか。」に対し、回答「1回1時間以上、2分割合計6時間でよい。」とした。

B.【休憩・休日（週休制）】設問「1日の労働時間が7時間30分である場合、法定休憩時間の最低基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「少なくとも30分。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

ア. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

イ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

ウ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

エ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。基準を満たさない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。30分では足りない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-149 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【分割休息・2人乗務の特例】設問「トラック運転者が1台に2人以上乗務し、身体を伸ばして休息できる設備がある場合の最大拘束時間として正しいものはどれか。」に対し、回答「2人乗務の特例により最大拘束時間を20時間まで延長できる。」とした。

B.【休憩・休日（週休制）】設問「1日の労働時間が9時間である場合、必要な法定休憩時間の最低時間はどれか。」に対し、回答「少なくとも30分。原則と例外・特例のどちらを問う設問かを区別して判断する。」とした。

ア. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

イ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

ウ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

エ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。所定の休息設備がある2人乗務では20時間まで延長可能。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。30分では足りない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK04-PDF-150 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【分割休息・2人乗務の特例】設問「2人乗務で一定要件を満たす車両内ベッド等を備える場合の更なる特例として正しいものはどれか。」に対し、回答「24時間・28時間への延長に設備の仕様や休息・仮眠要件はない。」とした。

B.【休憩・休日（週休制）】設問「休憩時間の与え方に関する原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「始業前だけに置けば勤務途中の休憩は不要。」とした。

ア. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

イ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

ウ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は誤り / 休憩・休日（週休制）の回答は正しい。

エ. 分割休息・2人乗務の特例の回答は正しい / 休憩・休日（週休制）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。詳細な設備・休息等の要件がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。始業前だけでは途中の休憩にならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。